

## Policy Topics

### 社会科学研究と教育における 映像資料の活用： 個人的な経験を中心に<sup>1</sup>

#### The Use of Visual Ethnographic Data in the Research and Education of the Social Science

李文雄<sup>2</sup>

Lee Mun Woong

本日のテーマは、社会科学研究およびその教育において映像資料をどのように使うかということです。まず社会科学において映像資料はなぜ重要なのか、なぜ私が映像資料に興味を持ったのかについて個人的経験を中心にお話します。また、インターネットの発達で映像資料の活用が進み、私も人類学のアーカイブを作成しました。それを講義でどのように活用するか、社会科学研究において映像資料がどのような意味をもつかを説明したあと、人類学研究で映像アーカイブを利用する際の問題点について述べることにいたします。

#### 1. 社会科学の対象

社会科学における研究対象は人間とその文化です。人間社会における文化は人間の行動の産物と言えます。社会システムがどのように機能しているのか、時間と空間で展開される人間の生活、それが社会科学の

研究対象です。社会科学の例外的領域として自然人類学と自然地理学があります。人類学をはじめ社会科学の研究者はフィールドワークを行って文化データを収集しますから、社会文化現象を記録した視聴覚資料はわれわれの研究や教育において重要です。

#### 2. 社会科学教育と映像資料

人類学を研究していて映像資料に興味をもったのは、今から40年前、テキサス州のライス大学に留学したときです。人類学の授業で映像資料を見せるのですが、当時はUCLAにあるインターライブラリーから資料を持ってきて、それをまたUCLAに返すという形をとっておりました。その後1977年にソウル大学に戻り、自分の講義でも映像資料を使いたいと思い、映像資料を集め始めてもう32年になります。

著名な映像資料としては、カール・ハイダー(Karl Heider)教授の資料があります。ハイダー教授の著書*Seeing Anthropology*は1997年に初版が発行されてから4回版を重ねました。最初は本に2本のビデオテープがついていましたが、2本だとかさばるので後に1本にまとめられました。最後のヴァージョンは2007年に発行され、映像資料は付属のCD1枚に収められています。私は2001年にハイダー先生をソウル大学に招いて映像資料について講義をしていただきました。

私が自分の講義で映像資料を頻繁に使うようになったのは2000年あたりからです。デジタル技術の進歩により映像資料をまとめて圧縮する技術は大変発達しました。パソコンの発達と普及にしたがって映像資料はますます入手しやすくなり、メモリーの拡大によって映像資料のデジタル化も進んでいます。技術の発達で教育環境は随分良

<sup>1</sup> 本稿は、2009年6月25日(木)に行われた総合政策学部講演会における講演内容の報告である。

<sup>2</sup> ソウル大学名誉教授 人類学

くなりました。

このファイルは私が自分の資料をデジタル化しデータベース化したものです。人類学のドキュメンタリーとして作った映像資料を、オリジナルどおり、あるいは講義に必要なところだけ編集してデータベースにしています。構築したファイル数は5,362で地域別に抽出できるようになっています。

### 3. 映像人類学データベースのアーカイブ化

インターネットの発達にしたがって、映像人類学データベースのアーカイブ化にもとりくんでいます。ソウル大学人類学科のホームページには、李教授映像人類学アーカイブというコーナーがあります。2001年にこのホームページが立ち上げられた時にインターネットにのせたもので、これによってさまざまな資料を教育現場とつなぐことができました。

もう一つのきっかけは2006年で、この年に韓国文化教育部の学術振興財団が「基礎学問資料センター」を構築しました。大学の研究者がいろいろなプロジェクトで集めたさまざまな研究資料のなかで、ドキュメンタリー、写真、動画などの映像資料を、使い終わったものも使えなかったものも、デジタル化してデータベースにのせるという作業でした。私は社会科学分野を担当しました。研究者の中には自分の資料は出したくないという人もいましたが、説得して出してもらいました。そのときベンチマーキングをしましたが、海外の著名なデータベースとしては、エール大学のHRAF (Human Relations Area File)やケルン大学のZA (Zentralarchiv für Empirische Sozialforschung: 実証社会調査中央アーカイブ)などがあります。

### 4. 授業における映像資料の活用

さて、12年かかって作ったこのアーカイブの利用方法ですが、サンプルをお見せしましょう。このスライドは「人間と文化」という講座の2005年2学期の第4週目に使用したもので、文化の概念について説明しています。スライドには写真やエッセイも含まれます。文化には、生活様式としての文化あるいは観念体系としての文化がありますが、この写真は文化の概念を説明するために使いました。

これは私の母の写真です。私には母がふたりおります。写真の女性は生みの母、となりに写っている石がもう一人の母で、私の守護神です。母は子どもを11人産みましたが、はじめの4人は全員死亡しました。5番目の私が生まれたのは両親が結婚して10年目でした。姑や舅がいまいたから、母は子どもが生まれないことに対して強いプレッシャーを感じていたのでしょうか、占い師のところへ行って、どうすれば子どもが生まれるか、生まれた子どもが死なないためにどうすればよいかを尋ねました。占い師は「現代自動車の裏山へ深く分け入って(私の故郷は蔚山で、現代自動車があります)そこの石を拝め、そうすれば産んだ子どもが死ぬことはない」と言ったそうです。占い師の言葉を実行した母は、子どもが死ぬん



じゃないかという心配から解放され、男5人、女2人を産みました。民間信仰が人々の心から心配を取り除き、幸せにしたのです。母の例が代表しているのは、韓国文化における民間信仰です。アーカイブではこの内容もテキストにしてデータ化し、写真とともにのせています。

30年前これを文章にして出した時、編集者は多くの人から手紙を受け取りました。自分の場合は山だった、あるいは石だったなどという内容でした。韓国人の心の中に存在する、超自然的なものに対する信仰の証明です。私は講義でこういった一枚の写真を見せて、文化とは何か、韓国人の心の中心に何かがあるかを説明します。日本の渋谷には、忠犬ハチ公像がありますね。私はハチ公の写真を見せて、文化とは何か、人間と犬の生活の違いは何か、犬に文化があるのか、という話をします。飼い主である東京大学の先生をいつも駅前で待っている犬。主人を待つ犬の気持ちは、人間が持っている気持と同じでしょうか。人間の文化のようなものが動物にもあるのでしょうか。授業のときには、『ハチ公物語』という日本の映画も紹介しています。

私は映像人類学の講義で民族映画(ethnographic film)を見せますが、研究用の映画もあり公開用の映画もあります。アーカイブの中にある公開用の映画をひとつ紹介しましょう。これは、1988年大阪の生野でフィールドワークをしたときのものです。NHKの30分番組で、番組のナレーションをすべて韓国語に訳してアーカイブの資料に載せています。添付ファイルをクリックするとNHKの映像に移ります。アーカイブでは、韓国文化に限定して、Visual data for Korean Studies と英訳したのももリスト

アップしています。

##### 5. 社会科学における映像資料の活用

これはナショナルジオグラフィックの番組で、チンパンジーが道具を作っている映像です。チンパンジーは木の枝を折って葉を剥き、アリの巣に入れて、くつついたアリの巣を舐めています。道具を作ることができるのは人間だけだという常識はこの映像によって覆されました。

これはニホンザルの研究者が日本の宮崎県で撮影した映像です。BBCで放送され世界的に注目を集めました。土のついたサツマイモをサルに向かって投げると、拾ったサルがサツマイモを抱えて海に行き、サツマイモを海水で洗っています。塩味もついて美味しいでしょうね。はじめにサツマイモを洗ったサルは、間違っって海にサツマイモを落としたのですが、海水で土がとれるという利点がわかり、どんどん他のサルに伝わりました。土を洗うのは道具行為の一つです。1950年代に取撮られた映像ですが、道具を使うのは人間だけではないという発見を伝える貴重な資料です。



これは1988年に大阪の生野の朝鮮市場を撮影した映像です。動画はフィールドワークの際に見逃してしまうところを後日見直

すこともできるので便利です。この資料からは生野に住んでいる朝鮮人の日常生活を知ることができます。ここに住んでいる朝鮮人は韓国・朝鮮から持ってきた文化と日本の文化の二つの文化の接点を体現しています。二つの文化の接触によって起こる、韓国ではみられないような行動や現象に私は非常に興味を持ちました。



これは在日コリアンの法事の様子です。この家は済州島の出身で約100人の親族が生野に住んでいました。韓国では通常、あたりが静かになる真夜中に法事を行います。ところがこの映像では、法事を執り行う部屋の隣で親族が集まっておしゃべりしています。済州等は本土から離れているため、本土と済州等の文化は違うのかと私は思いまして、済州島ではどうかと調べると、やはり法事は同じように静かな真夜中に行われていました。韓国から日本に渡ってきた大勢の親族が久しぶりに集まって、韓国とは違う文化的変化が起きたのではないのでしょうか。韓国の人にこの映像を見せると非常に驚きます。

これは韓国で行われている法事の映像です。生野の法事が夜の7時や8時に行われていたのとは異なり、真夜中にとっても静かに執り行われています。生野では、韓国の文

化が身につけていても、移民先の日本の状況にマッチして、久しぶりに集まった親族が話をして交流を深めるようになったのだと思われます。



## 6. 映像資料アーカイブにおける問題点

アーカイブにある資料には、実際に放送されたものや市販されたものがありますから、著作権の問題が起こってきます。韓国は日本ほど著作権に関して厳しくありませんが、問題がないわけではありません。このホームページの右上に「コピーレフト」(copyleft)と書かれています。「コピーレフト」運動は、著作権(copyright)に対して、著作権は保持したまま、すべての人が著作物を利用・再配布・改変できなければならないという考え方が基礎となっています。私は資料を載せる時に、「あくまでも教育目的であり、著作権は他の人にあります」、「フルバージョンは必ずオリジナルをご覧ください」というコメントをつけています。韓国は著作権に関する法整備があまりないので、こういうことも可能なのかもしれません。クリエイティブコモンズ(Creative Commons CC)の運動もあります。著作権すべてを留保する“All Rights Reserved”に対して“Some Rights Reserved”(いくつかの権利が保障される)と規定するものです。知識・

資料はいろんな人が共有する必要があるという理念からMIT大学がはじめました。私は講義資料をインターネットに載せる場合、著作権を明示するとともに商業目的で使わないことも明示し、自分が作った資料には、CCL(Creative Commons License)をつけています。CCLのマークはつぎのものがあります。



著作権の表示



商業的目的の利用禁止



改変の禁止